

堆肥や緑肥などの有機物を投入して畑に腐植を供給しましょう！

1 三浦半島の土壌

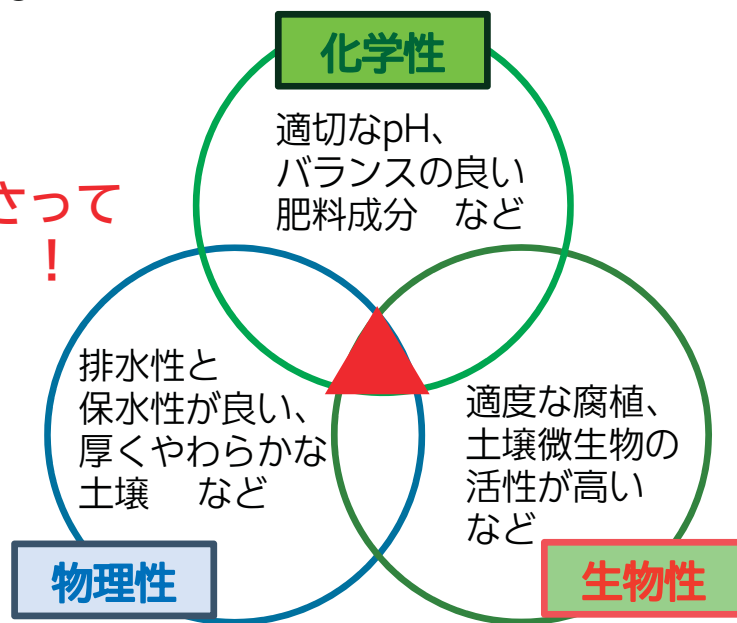
- 堆肥等の有機物の投入が減少し、**土壌環境の悪化による、硬い畑や水はけの悪い畑、障害や病気などの増加が懸念**されます。
- 近年の極端な高温や乾燥、ゲリラ豪雨などの**気象条件の悪化に負けない緩衝力のある土壌**が求められています。
- 輸入に頼る肥料などの価格が上昇しています。**肥料コスト抑制ための対策**が必要です。

安定した野菜生産のために、土づくりをしましょう！

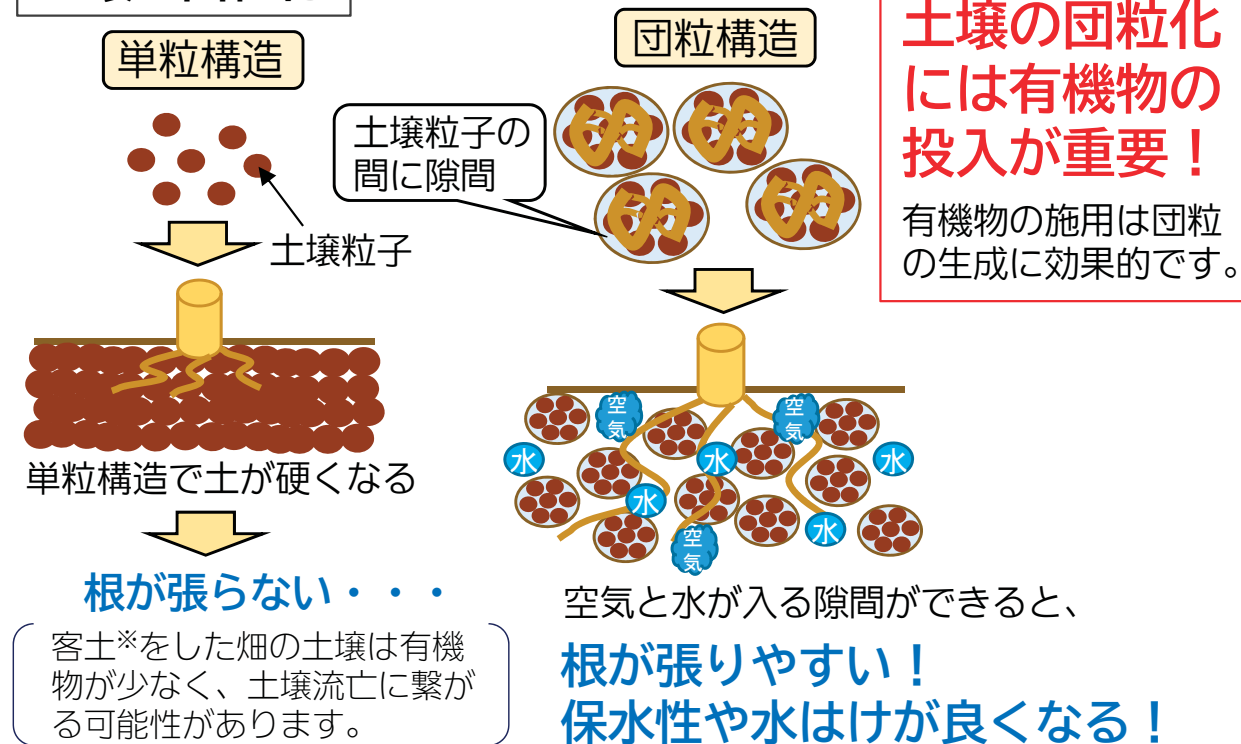
2 土づくりで大切なこと

地力の構成要素

3つの性質が合わさって「地力のある土壌」！



土壌の団粒化



3 有機物を投入する

○主な有機物の種類

- ・堆肥（牛ふん、豚ふん、鶏ふん等）
- ・緑肥作物（マリーゴールド、ライムギ、オオムギ、エンバク、ギニアグラス、ソルゴー、ヘアリーベッチ等）
- ・有機物を含む資材や肥料



- ・堆肥は完熟しているものを施用しましょう。また、養分バランスを崩さないために肥料成分を把握して施用しましょう。
- ・緑肥は後作がダイコンの場合、ネグサレセンチュウが増えない緑肥（マリーゴールド、エンバク等）を選び、窒素飢餓を避けるため、すき込みから播種までに1か月以上あけるようにしましょう。

しかし、有機物は時間の経過とともに減少・・・

⇒ 有機物を投入して、土壌の腐植の量を保つ必要があります！

- 腐植とは、一般に土壌中に存在する有機物のうち、まだ明確な形が残る動植物遺体（粗大有機物）を除いた無定形の有機物です。腐植の多い土壌ほど濃い黒色になります。

腐植は土壌中で重要な働きをしている！

- ① 植物の生長促進（なかでも根の生育を促進させ、障害に強い作物が育つ！）
- ② 作物養分の貯蔵庫
- ③ 土壌を団粒化
- ④ リン酸の可給化
- ⑤ 土壌の保肥力の増大
- ⑥ 土壌微生物の多様性の向上

4 土づくりのために有機物を含む資材や肥料を活用する

堆肥や緑肥の利用が望ましいですが、難しい場合は次のような資材を活用しましょう。

有機物を含む資材の例

- ・混合堆肥複合肥料（堆肥と化学肥料等を配合した肥料）・・・エコレットシリーズなど
- ・濃縮堆肥（堆肥を手軽に投入）・・・レオグリーン特号、スーパーコンポなど
- ・腐植酸資材（腐植酸を直接投入）・・・ユーキフルペレット、アヅミンなど

5 肥料コストを抑えるために

比較的価格が安定している**堆肥などの国内資源**を利用することや**土壌診断の実施**により、適切な量の肥料を畑に入れましょう。

<参考文献>

図解でよくわかる土・肥料のきほん（誠文堂新光社）、品目・栽培特性を活かす土壌と施肥（誠文堂新光社）、地力アップ大事典（農山漁村文化協会）

※客土を行う場合は、農地法に基づく手続きが必要です。事前に農業委員会へご相談ください。